

平成12年度 病害虫発生予察 特殊報 第1号

病害虫名： ハダニ科 クローバーハダニ
Bryobia praetiosa Koch

対象作物： コマツナ，ハウレンソウ

1. 特殊報の内容

クローバーハダニによるコマツナおよびハウレンソウの被害発生を都下（江東地域）で初めて確認した。コマツナおよびハウレンソウにおける本種の発生および加害記録としては初めてと思われる。

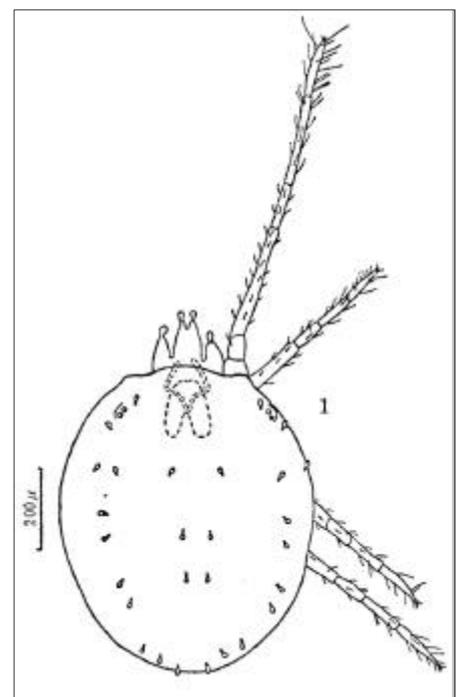
2. 発生経過

- (1) 2000年4月5日中央農業改良普及センター東部分室，農業試験場江戸川分場より江戸川区の施設で発生した本葉に短い白線上，双葉にかすり状の激しい症状（写真参照）が認められる数株のコマツナが持ち込まれた。
- (2) ただちにコマツナ栽培施設を調査し，発生面積，症状の差はあるものの数カ所の施設で本症状の発生を確認した。同時に本症状発生圃場で，ムラサキマルトビムシの一種やハダニの一種，ナミハダニ，モモアカアブラムシなどを採集した。
- (3) 室内でコマツナへ放飼し試験したところ，ハダニの1種による食害痕が持ち込まれたコマツナ葉と同様の症状を示したことなどから，本症状は本種による被害と確認した。
- (4) 千葉大学園芸学部応用動物学教室天野洋博士により本種は標記と同定された。また，江原昭三博士に本種の文献・資料に関してご教示いただいた。なお，文献に関して青森県津軽地域病害虫防除所からご協力をいただいた。

3. 形態

- (1) 雌は赤褐～暗褐色。胴背面にしわがあらく走る。胴背毛は微小で葉状。
- (2) 胴前部に2対の突起があり，外方の突起に生える第2前胴体背毛の先端を結ぶ線は，内方の突起にある第1前胴体背毛の半ばには通常とどかない。
- (3) 第脚は胴部と同長かまたは長い。第脚の爪間体は1対の粘毛からなる。
- (4) 体長0.79～0.93mm。
- (5) 産雌単為生殖で，雄は存在しない。

（右図成虫雌：日本ダニ類図鑑より）



4. 生態・分布

- (1) 日本各地に普通。汎世界的に分布。
- (2) イネ科, ナデシコ科, マメ科, キク科など多数の雑草のほかにイチゴ, キャベツ, ミツバなど農作物に寄生することも報告されている。しかしながら, 農作物への加害に関して詳細な報告はほとんどない。
- (3) 5 ~ 6 月に夏眠卵を産み, これらは晩夏 ~ 初秋にかけて孵化するとされている。
- (4) 脱皮や産卵は土塊などの湿度の高いところで行われる。
- (5) 都内数カ所で本種の生息を調査したところ, ホトケノザやイネ科雑草などにおいて生息を確認した。また, 多摩地域のコマツナ露地栽培数カ所で本種の加害を確認した。これらのことから, 本種は都内全域に普通に生息しているものと考えられる。
- (6) 発生後の継続調査では 5 月に入り徐々に個体数が減少し, 5 月下旬にはほとんど個体を確認できなくなり, 新たな被害も認められなくなった。

5. 被害

- (1) コマツナ・ホウレンソウでは葉表に成虫・幼虫とも寄生し加害する。吸汁により白い斑点が生じるが, 連続的に吸汁が行われ線状となることが特徴となる。
- (2) 葉表に単独ないし数頭が寄生するが行動は素早く, 人の気配等で葉裏に回ったり, 地表に落下する。また, コマツナおよびホウレンソウの葉上に卵は確認していない。
- (3) 現地ではコマツナおよびホウレンソウへの被害が顕著であるが, そのほかに施設内のエダマメ葉, 露地のキャベツ葉にも本種の加害痕が見られた。
- (4) 被害はハウスの中央部に比べサイド, 入り口付近に多い傾向が見られた。
- (5) 特に本種が多発した施設では, 堆肥が土壌表面に多く見られた。

6. 防除対策および注意

- (1) 圃場周辺の雑草防除を徹底する。
- (2) 江東地区のコマツナ栽培施設の多くは, 多少の差はあれ本種の加害が見られている。年間の発生消長など生態は不明な点が多く, 今後調査をしていく必要がある。
- (3) ホウレンソウにおいてはハダニ類に対して以下の登録農薬がある。
 - ・ダニトロンフロアブル 2,000 倍 収穫 21 日前まで 1 回

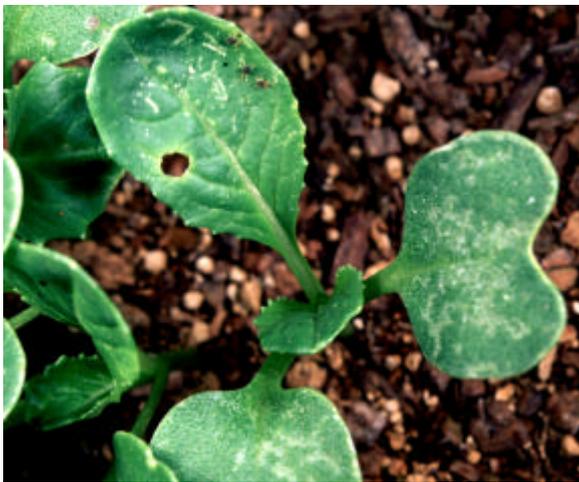
7. 図：被害の状況, 成虫 ほか 第 1 ~ 6 図 (次ページ)



第 1 図 . 持ち込まれたコマツナ



第 2 図 . 持ち込まれたコマツナ葉



第 3 図 . コマツナ幼苗上の成虫と被害 (現地)



第 4 図 . コマツナへのクローバーハダニ放飼試験による被害痕



第 5 図 . ホウレンソウの被害 (現地 1)



第 6 図 . ホウレンソウの被害 (現地 2)